

在 自

この題字は弘法大師24歳のご親作でご親筆である^{ロウコシキ}聾瞽指帰より複製させて頂いたもので、原本は高野山金剛峯寺に収蔵されています。

2025年

こども作品展
特集号

No. 48



第48回 自在園こども作品展 特賞

たけのこをほったよ

河野 聖 (城辺小学校6年)

世代を超えたつながりが育む

地域と心の豊かさ

愛南町・篠山小中学校組合教育委員会

教育長 中尾茂樹

現代社会において、高齢者と児童生徒が関わりを持ち、世代を超えてつながることの重要性が高まっています。少子高齢化が進む日本では、地域社会のつながりが希薄になりつつあり、孤立する高齢者や、家庭外での多様な価値観に触れる機会が少ない子供たちが増えています。こうした背景の中で、世代間の交流は双方にとって大きな意義を持つとともに、地域全体の福祉や教育の質を高める可能性をも秘めているのです。

豊富な経験と知識を持ち、人生の知恵を語ることができると高齢者との関わりは、子供たちにとって、学校や家庭では得られない学びや気付きを得る貴重な機会となります。例えば、昔の暮らしや地域の歴史、仕事の経験などを聞くことで、子供たちは自分たちの生活を相対化し、社会への理解を深めることができます。また、思いやりや敬意といった人間関係の基本を学ぶこともできます。

一方で、高齢者にとっても子供たちとの会話や活動は、日常に刺激を与え、生きがいや社会とのつながりを感じる機会となり、心身の活性化につながります。特に、地域の学校や福祉施設での活動などを通じて、自分の役割を再認識し、自己肯定感を高めることができます。

このような世代間交流は、互いに支え合う関係を可視化し、

孤立を防ぎ、地域社会を再生していきます。そういった愛南町の福祉の充実に、自在園はずっと大きな役割を果たして来られました。心より感謝申し上げます。教育委員会としましても、世代を超えたつながりは、持続可能な社会の基盤となり、互いの違いを認め合い学び合う関係を築くことができる意義深いものだと考えていますので、今後とも「つながり」を大切に継続したお年寄りと子供たちの交流を、どうぞよろしくお願いいたします。

さて今年度も、「第四十八回自在園子ども作品展」には、町内の各小学校から多くの絵画、作文が出品されました。どの作品も、高齢者の方々に対する尊敬の念や感謝の気持ち、子供らしく素直に表現されており、絵画を鑑賞する人、作文を読む人に温かな感動を与えてくれるものとなっています。具体的には、画用紙の中で微笑み合う幸せそうな眼差しや、自在園にお勤めの方も含め介護にかかわる人々へのインタビュー等福祉に関して真面目から学ぼうとする姿勢などが、作品の中から直接伝わってきて私も大変感激したのでした。なお、絵画作品については、自在園（10/26～11/25）と御荘文化センターの一階エントランスホール（11/27～12/10）に展示します。また、作文についても、愛媛CATVでの放送が決まっています。是非多くの方々に鑑賞していただきたいと思っております。

最後に、特別養護老人ホーム自在園の益々のご発展と、利用者の皆様や関係職員の方々のご健勝とご活躍を祈念するとともに、激しい変化が止まることのない時代に生きる子供たちが、主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、心豊かにたくましく成長していくことを心より願っております。

第四十八回 こども作品展

開催の目的

一、こどもたちの澄んだ目を通して地域の人々のもつ高齢者イメージの実態を把握し、コミュニケーションとして高齢者福祉に対する意識の啓蒙をはかる。
二、地域社会と老人ホームとの交流を深める。

主催

社会福祉法人御荘福祉施設協会
特別養護老人ホーム 自在園
ユニット型特別養護老人ホーム 自在園
並びに、自在園家族会

協力

愛南町教育委員会
郡内小学校（九校）

絵画の部

◎審査員

尾上 真由美 先生（平城小学校教諭）
前田 千穂 先生（御荘中学校教諭）

◎応募点数

総数46点

◎入賞者

特賞	河野 聖	（城辺小学校六年）
金賞	村上 秋悟	（家串小学校四年）
	土居 希偉士	（平城小学校二年）
銀賞	山本 りりあ	（平城小学校一年）
	大野 真奈	（城辺小学校三年）
	中川 瑛翔	（平城小学校六年）
銅賞	吉田 稜司	（平城小学校二年）
	高魚 碧	（家串小学校三年）
佳作	濱田 寛人	（城辺小学校六年）
	小島 都愛	（家串小学校一年）
	池田 蓮叶	（柏小学校二年）
	宮岡 幸佑	（一本松小学校二年）

作文の部

◎審査員

奥野 千尋 先生（柏小学校教諭）
尾崎 里香 先生（一本松小学校教諭）
大西 由美 先生（篠山中学校教諭）

◎応募点数

総数15点

◎入賞者

特賞	大野 仁陸	（一本松小学校六年）
金賞	山本 美結	（平城小学校五年）
銀賞	福森 慶	（家串小学校二年）
	中川 瑛翔	（平城小学校六年）
銅賞	宇佐 光陽	（城辺小学校四年）
	井上 颯士	（柏小学校五年）
佳作	川村 福幸	（城辺小学校五年）
	松原 蒼士	（家串小学校三年）
	末廣 夏杏菜	（柏小学校四年）
	猪野 愛莉	（福浦小学校五年）





絵画の部 入賞作品
— 特賞は表紙掲載 —

おばあちゃんの作る広島風お好み焼き

家串小四年 村上秋悟

金賞



おじいちゃんおばあちゃんと四国カルストに行ったよ

平城小二年 土居希偉士



銀賞

おじいちゃん、おばあちゃんだいすき

平城小一年 山本 りりあ



おばあちゃんのひまわり

城辺小三年 大野 真奈



よっこいしょ
平城小六年 中川瑛翔

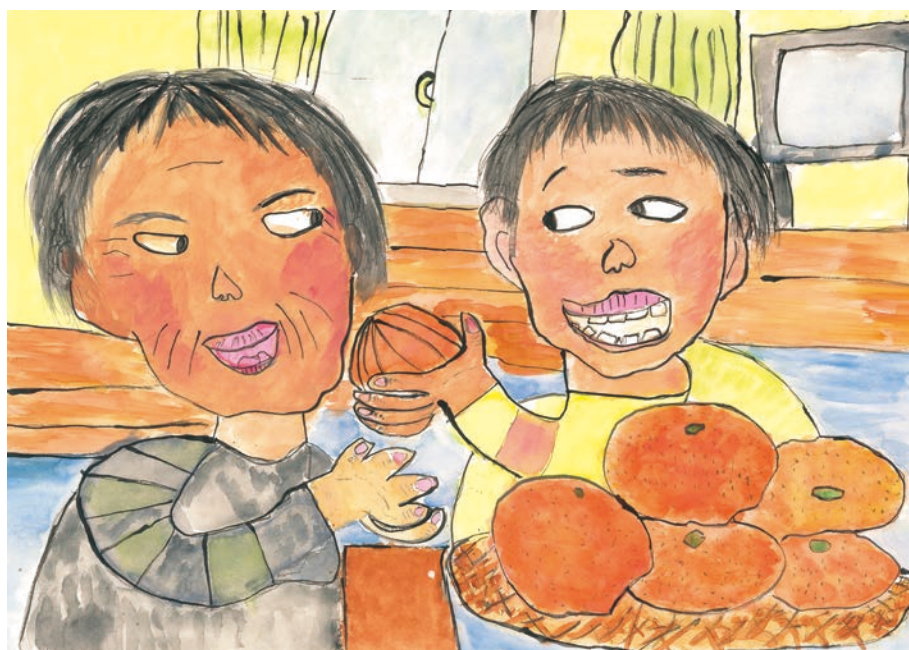


銅賞



じいちゃんといっしょに草とりしたよ

平城小二年 吉田稜司



いっしょにみかんを食べたよ

家串小三年 高魚 碧



市場で働くおじいちゃん

城辺小六年 濱田寛人



おしごとがんばるおばあちゃん

家串小一年 小島都愛

佳作



ダンプをうんでんするかっこいいばあば
柏小二年 池田蓮叶



おじいちゃんと夏やさいづくり
一本松小二年 宮岡幸佑

二 作文の部 入賞作品 二

特賞

自在園について

一本松小学校六年 大野 仁 睦

傷になったりするので、それを手当てをすることもあるそうです。

次に、部屋の数を聞きました。部屋には、多床室と個室があります。多床室には、花・風・杜・空の組があり、二十人ずつが一緒に過ごしているそうです。

ほくのおばあちゃんは、自在園ができて一年たった年に就職して、それから五十年近く働いています。おばあちゃんは七十さいですが、今もパートで働いています。五十年の間、ずっと同じ仕事を続けているおばあちゃんを尊敬します。

そんな自在園に、ほくも一度行ったことがあります。自在園の文化祭があったときです。そのときは、地域の人と入居者のみなさんが交流してすごく楽しそうでした。バザーや屋台があって、おいしいものをたくさん食べました。コロナがあって、バザーや屋台が出たり、地域の人を呼んだりするのはお休みみたいなので、残念です。ぜひまたやってほしいです。一度行っただけのほくでも楽しかったので、入居しているみなさんや、職員のみなさんもとて楽しいのだと思います。

ほくは自在園について調べておどろいたことがあります。

一つ目は、たくさんの方がいるということです。百人以上の方がいることにおどろきました。たくさんの方がいっしょに過ごすことは、一人だけで家で過ごすより安全で、家族も安心できると思います。

二つ目は、施設がとても大きいことです。「ユニット型特別養護老人ホーム」や「デイサービスセンター」を合わせて自在園ということを知れました。そして、その「デイサービスセンター」にもたくさんの方が来ていることが分かりました。介護が必要な人だけでなく、介護が必要なくても、家で一人でさみしい思いをしなくていいような、取り組みをしていました。

ほくは、今回調査をしてみようと思ったことがあります。自在園は、すべてのおじいちゃん、おばあちゃんが安心して、安全に生活するための施設で、思いやりと優しさがつまった場所だということだと思います。ほくのおばあちゃんもいつまでも元気で仕事をがんばってほしいです。

まず、聞いたことは仕事内容です。ほくのおばあちゃんは、自分で食べ物を食べるのが難しい人の介護をしていて、主に食べることの手助けをしています。また、入居者の方の中には、皮ふが弱い人もいて、ちょっとしたことだけがをしたり、

傷になったりするので、それを手当てをすることもあるそうです。

一つ目は、たくさんの方がいるということです。



金賞

自在園のおばあさん、おじいさんへ

平城小学校五年 山本美結

私はこれまでに福祉について勉強したことがあります。福祉とは、特定の人だけでなく、みんなが幸せにくらせるようにするための活動や仕組みのことです。高れい者の福祉は、おばあさんやお

じいさんが、元気で楽しく、安心してくらせるように、社会全体で応援する取組みのことです。

長い間、社会のためにがんばってくれた高れい者の方々が、これからも大切にされて、生きがいを持って過ごせるようにするのが目的です。老人ホームは、おばあさんやおじいさんが安心してくらせるように、いろいろなサポートをしてくれる場所のことです。体調が悪くなったり、一人で生活するのがむずかしくなったりした時に、お手伝いをしてくれる人がいる場所です。

私は小さいころに、自在園をほう問したことがあります。その時、お母さんとそうじをしたり、おばあさん、おじいさんと話したり遊んだりして

交流しました。また、四年生のころは、自在園のおばあさん、おじいさんとオンラインの交流会をしました。交流会では、ダンスをしたり、「にじ」という歌を歌ったりしました。この交流で、うれしかったことがありました。それは、「にじ」を歌っている時に、おばあさん、おじいさんがにじ色のガーゼなどを持って、曲に合わせて振ってくれたことです。私はとてもうれしい気持ちになりました。その後の感想交流では、笑顔で「幸せです。」

と、言ってくれたおばあさんがいらっしゃいました。その笑顔が今でも私の心に強く残っています。

小学生と交流することで、お年寄りが活動する機会が増えたり、会話をすることが増えたりして、心や体の健康にも良いえいきょうがあるそうです。私たち小学生も相手をいたわるやさしい気持ちや思いやりの心を持つことができたと思います。お年寄りに合わせてゆっくり歩いたり、お手伝いをしたりする中で、相手の気持ちを考える大切な経験ができました。お年寄りの方から「ありがとう」って言われると、お手伝いすることが楽しくなりました。お年寄りの方と交流することは、みんなが笑顔になれる活動だと思います。

これからも機会があればまた交流したいです。自在園のおばあさん、おじいさんこれからも長生きしてください。



銀賞

じいちゃんのにんにくパワー

家串小学校三年 福森 慶

ぼくのじいちゃんは、とても元気です。七十四才なのに、走ります。すもうも、とても強いです。ときどき、にいちちゃんとぼくとじいちゃんといっしょにすもうをとります。どんなにたたかっても、まけてしまいます。じいちゃんは、すごく力があります。いつも、ころがされてしまいます。けれど、一回だけかかったことがあります。そのとき、ぼくはまけてばかりでくやしいので、じいちゃんの足をとってやりました。そしたら、こけそうになっ

てぼくがかちました。うれしかったです。じいちゃんが元気で力が強いのは、にんにくパワーだと思います。じいちゃんは、にんにくが大好きです。すいはんきに入れて、やわらかくして食べています。ぼくは、にんにくはめちゃうくさくさいので、にがてです。にんにくを食べるじいちゃんは、すごいです。

そのにんにくは、じいちゃんが、じぶんではた

けで作っています。にんにくいがいにもにんじん、じゃがいも、玉ねぎ、キャベツを作っています。はたけでいろんなものを作っているじいちゃんはすごいなと思います。じいちゃんが作ったじゃがいもやにんじんや玉ねぎをつかったカレーは、ぼくの大こうぶつです。

じいちゃんのしごとは、貝のしごとです。海の中でそだてている貝のかごをあけて、ふじつぼをとっています。見ていたら、ぼくもやってみたいなど思います。じいちゃんは早おきで、朝の四時にはおきて、しごとをしています。そんなに早くおきてしごとをして、はたけのしごともしているじいちゃんは、すごいなと思います。ぼくは、夏休みに、少し手つだいをしました。台風が近づいているときに、貝を入れるあみを車こまではこびました。ごほうびにお金をもらいました。それで、レゴを買いました。手つだえてよかったな、と思いました。また、手つだいをしたいと思います。じいちゃんは、一回親ゆびのほねをおったことがあります。そのときは、しごとができませんでした。とてもしんばいでした。でも、なおるちよつとまえからしごとをはじめていました。だいじょうぶかな、と思っただけれど、だいじょうぶでした。

これにもんにくパワーだと思います。

ぼくは、よくじいちゃんとさんぽに行きます。

じいちゃんが、

「さんぽにいかんか。」

ときそつてくれます。さんぽに行ったら、じいちゃんは海をながめています。ぼくは、かもめをおいかけて遊びます。そして、いっしょにすこし海をながめて帰ります。じいちゃんとすこすそんなじかんも好きです。

やさしくて、はたらきもののじいちゃん、これからもにんにくパワーで元気でいてください。



銀賞

祖父母の仕事から考えたこと

平城小学校六年 中川 瑛 翔

ぼくには四人の祖父母がいます。四人とも若い

時から一生けんめい働いていました。父の方の祖父は、そうぎの仕事をしています。夜中でも電話がかかれば出勤して、亡くなった人やその家族のために働きます。とても大変だと思うけれど、なくてはならない大事な仕事だと思います。人生最期の旅立ちをむかえた人とその家族がしっかりとお別れできると、残された家族のその後の生き方も変わってくるそうです。人の生き方に関わる仕事は、本当にすばらしいと思います。祖母はかい護の仕事をしています。デイサービスでお年寄りの食事や生活のかい助をしています。認知症のお年寄りなので、とても大変ですが、祖母はいつも笑顔でがんばっています。きっと、デイサービスを利用していらっしゃる方にもその笑顔の優しさは伝わっていると思います。母の方の祖父は市役所で働いていました。四十年も働いていたそう

です。同じところでずっと働いていた祖父のどんな力と責任感を感じます。退職した後も森林組合で働いていて、前向きに努力する向上心を感じます。祖母は保育士でした。いつも優しく笑顔の祖母にぴったりの仕事だと思いました。きっと園児から好かれる先生だったんだろうと想像します。

そんな四人の祖父母から学んだことは、家族のために一生けんめい働くということです。ぼくはまだ仕事をしたことはないけれど、働くことはとても大変で、責任のあることだと思います。もちろん、外で働くだけではなく、家事をしている人もいると思うけれど、それも立派な仕事だと思います。

ぼくは大人になったときに、祖父母と同じように一生けんめい働けるだろうかと不安になることがあります。そこで、元気に仕事を続けるひけつについて考えてみました。ぼくの祖父母だけでなく、高い者になっても生き生きと働いている人はたくさんいます。年をとっても、人の役に立つということは大事なことだと思います。人の役に立つと感謝され、感謝されるともっとがんばろうという気持ちになります。体が元気であることは

もちろん大切ですが、人の役に立つことで心も元気になるのではないかなと思いました。自分のやる気を上げるために、人の役に立つ人になりたいと思います。

ぼくは、祖父母から「笑顔を大切にしていき。」

と言われます。人に接するときだけでなく、落ちこんだときにも前向きに笑顔でいればなんとかなると言われて、笑顔を大事にしようと思うようになりました。ぼくは今、児童会役員をしています。笑顔を心がけるようにしていますが、それを続けることは難しいと感じます。それでも、ぼくにたくさんのことを教えてくれたすきな祖父母を指してこれからもがんばり続けたいです。



銅賞

いつも見守ってくれてありがとう

城辺小学校四年 宇佐光陽

食べ終わったら、ぼくはピアノをひきに行きま
す。おばあちゃんは、ぼくがひいているところを
ずっと見てくれています。きつとおじいちゃんも、
聞いてくれていると思います。

おじいちゃんは、ぼくが生まれるちょっと前に
なくなりました。ぼくが生まれるのを楽しみにし
ていたそうです。おじいちゃんの名前は光夫です。
お父さんの名前は光太郎です。その「光」をとっ
て、ぼくは光陽という名前を付けてもらいました。
おばあちゃんの家とのこの間には、おじいちゃん
がたいを持って、おいしさを伝えているポスター
がかざってあります。ぼくは、そのポスターが大
好きです。それは、かっこいいからです。

おじいちゃんは、お兄さんと弟さんといっしょ
に宇佐水産をつくったそうです。今も、ずっと続
いています。ぼくが、大人になって宇佐水産で働
くまで、続けていてほしいです。そして、もっと
おいしいたいを育てて、宇佐水産の名前を広めら
れるようにがんばりたいです。今、愛媛県のたい
の生産量は日本一だけど、二十市町の中では宇和
島市が一位です。ぼくが宇佐水産ではたらくよう
になったら、愛南町が一位になるようにがんばり
たいです。

次に、おばあちゃんに元気のひけつをインタ
ビューしました。おばあちゃんは「気持ちが一番大事」
と言っていました。「おじいちゃんが早くなくなっ

たから、おばあちゃんはせいっぱい生きる」と
話してくれました。元気に過ごすために工夫して
いることも教えてくれました。一つ目は、もりも
り食べる、何でも食べることだそうです。健康に
よい食べ物、しっかりと食べているそうです。
二つ目は、健康体そうを続けることだそうです。
健康体そうは、月曜日から金曜日の午後一時半か
ら、公民館で行っているそうです。おばあちゃん
はそれをわすれず、いつも行って、体を動かして
いるそうです。三つ目は、カラオケを楽しむこと
だそうです。土曜日には、公民館でカラオケをし
ているそうです。健康体そうとカラオケでは、み
んなとたくさん話して、たくさん笑っているそう
です。笑うことも元気のひけつだそうです。

これからも、おばあちゃんに元気でいてほしい
ので、ぼくは、おばあちゃんをたくさん笑顔にし
たいです。今年の運動会や郡水泳大会、ピアノの
発表会にも応えんに来てくれました。おばあちゃ
んは、

「がんばったね。元気をもらったよ。」

と笑顔で言ってくれました。ぼくは、これからも
いろんなことをがんばって、おばあちゃんを元気
付けたいです。

おじいちゃんおばあちゃん、大好きだよ。いつ
もありがとう。これからも、ぼくを見守ってね。

ぼくが、おばあちゃんの家に行ったら、笑って
出てきてくれてありがとう。火曜日の夕方に行っ
たら、ご飯を作ってくれます。ぼくが
特に好きなご飯は、からあげとたいめしです。か
らあげは、外はカリカリしていて中はジュワツと
しておいしいです。たいめしは宇佐水産のた
いを使って作っています。たいのさし身をつけに
してご飯にのせます。その上にネギとのりをのせ
て食べます。たいのさし身はぷりぷりしていて、
おいしさが口いっぱい広がります。食べ終わっ
たら、

「おいしかったよ。また作ってね。」

と言います。おばあちゃんにはっこり笑ってくれ
ます。

おばあちゃんは、野菜もたくさん育てています。
ミニトマトやピーマン、きゅうり、オクラなど
です。前に、ミニトマトとオクラがのった夏野菜カ
レーを作ってくれました。ぼくは、お肉や魚や野
菜をバランスよく食べているから元気です。

銅賞

ぼくのおじいちゃんはりょうし

柏小学校五年 井上 颯 士

ぼくのおじいちゃんは、もう、七十才をこえているのに、とても元気です。どうしてそう思うかというと、二つの「りょうし」をしているからです。それは、「漁師」と「りょう師」です。どれだけ働き者で、どれくらい元気なおじいちゃんかについて、しょうかいます。

おじいちゃんが「漁師」の仕事をするのは、毎朝早くからです。船で漁に出かけて行って、春はタイ、冬はカンパチやブリをつつてきます。一度、ものすごく大きなタイやハタをつつて帰ってきた。ぼくは初めて見る大きさだったので、

「すごいーい！」

と大きな声で言いました。おじいちゃんもとてもうれしそうに笑っていました。いつもつれるわけではないけれど、時々大物をつつて帰ってくるおじいちゃんをすごいなと思います。おじいちゃんにつりのこつを聞くと、

「さおを大きくゆらさずに、小さくゆらしながらずっと待つことやな。」

と教えてくれました。ぼくは、どちらかというのんびりとした性格なので、つりは向いているかもしれないなと思いました。

次に「りょう師」です。特にイノシシやシカなど農作物をあらす動物のくじよの仕事をしています。少しかわいそうな気もするけど、おじいちゃんがこの仕事をする事で、農家の人が助かるので、大切なことなのだと思います。おじいちゃんがりょうをするときには、りょう犬を連れて行きます。まず、りょう犬にえものをさがさせて、場所をつきとめます。次にできるだけえものの近くまで近付いて、鉄ぼうで打つそうです。一度、りょう犬がイノシシにおなかをつのでさされたことがあったと聞いて、とてもいたそうだし、こわいなと思いました。そして、おじいちゃんがけがをしたらどうしようと心配になりました。前におじいちゃんが、りょう犬が年を取ってあまり動けなくなつたらりょう師はやめると言っていました。ぼくは、おじいちゃんが、やめる時まで絶対にけがをしませんようにと願っています。

おじいちゃんがすごいのは、これだけではありません。

ません。二つのりょうし以外に、みかんも作っています。だから、おじいちゃんはずっと働いています。漁師とりょう師、そして農家までしているなんて、すごいと思いませんか。

ぼくもおじいちゃんに負けないように、今、音楽練習や勉強をがんばっています。特に今年は音楽発表会でコンガをたたくので、毎日がんばって練習をしています。そして、おじいちゃんのように一生けん命がんばれる人になれるよう、ぼくもこれから毎日大切に一生けん命がんばっていきたいです。



銅賞

ぼくのもんけいする人

城辺小学校五年 川村 福幸

ぼくのおじいちゃんは、かつお節を作る仕事をしています。ぼくの家のベランダからは工場が見えます。朝早くからけむりがもくもくと出ています。魚をいぶしているかおりがぼくの家にも届いてきます。

かつお節は、かつおをゆでて、ほねを取りのぞき、何回もいぶして、かわかして作るそうです。夏は暑くて大変だし、冬は水が冷たくて手がかじかむと、おじいちゃんが話してくれました。たぎな屋に入つてまきを燃やすときは、目がとても痛くなることも教えてくれました。五十年間毎日、丁寧に仕事をしているおじいちゃんのことを、ぼくはとてもすごいと思っています。

おじいちゃんのかつお節で作っためんつゆで、そうめんを食べるのがぼくは大好きです。夏になると、お母さんがかつお節のだしをとったつゆを作ってくれます。そうめんをつゆにつけて食べる

と、かつおのいいかおりが口の中に広がってすごくおいしいです。お母さんに、

「まだ食べるの？」

と言われるくらい、いくらでも食べることができません。

去年の夏、おじいちゃんが感せんしようにかかって入院しました。何日もますますでねむらされて治りようすることになりました。病院の先生から

「しばらく話すことはできません。」

と言われました。お見まいに行った時、ベッドでねむっているおじいちゃんは、いつもとは全く違う人でした。このまま会えなくなる日がくるかもしれないと思うと、心がぎゅうつと苦しくなりま

した。いつも当たり前のように話していたおじいちゃんの声を、もう聞けなくなるかもしれないと思うと、なみだがいっぱい出てきました。おじいちゃんは、一生けん命がんばって、少しずつ元気になって、退院することができました。おじいちゃんとまた話せた時は、本当にうれしかったです。

ぼくは、おじいちゃんのように、真面目に一つのことを続けられるような人になりたいと思っています。そして、いつかぼくもかつお節を作る仕

事をして、家の味を守っていきたいです。おじいちゃんからお父さんへ、お父さんからぼくへ、そして次の世代へつなげていけたらいいなと思います。

けい老の日に、おじいちゃんにいつもありがとうと伝えました。ぼくの大好きな味を作ってくれて、家族の食たくを支えてくれて、いつもやさしく見守ってくれて、本当に感しゃの気持ちでいっぱいです。

おじいちゃん、これからも元気でいてください。そして、ぼくにもつといるんなことを教えてください。ぼくが、おじいちゃんのような人になるのを見守っていてください。



佳作

大好きなおばあちゃん

柏小学校四年 末 廣 夏香菜

わたしのおばあちゃんは、わたしにとって、友達のようなそんざいです。おばあちゃんは、おもしろくてとてもやさしいです。そんなすてきなおばあちゃんをしようかいます。

おばあちゃんは、歌を歌うことが好きです。おばあちゃんの歌っている歌は、昭和の曲が多いので、学校で、わたしが「りんごのうた」を歌っていると、先生がびっくりした後いっしょに歌ってくれます。おばあちゃんのおかげで、先生と楽しくすごせています。

おばあちゃんは、歌だけでなく、おもしろい話をして、わたしや弟を笑わせてくれます。だから、いつも食事のときは笑顔がいっぱいで、にぎやかです。おばあちゃんがつこり笑うと太陽みたいにみんなの心まで明るくしてくれます。

とてもやさしいおばあちゃんですが、おこるときは、きびしいです。わたしが悪いことをしたと

きに、しつかりしかつてくれるところも大好きです。なぜかという、わたしのことを大切に思ってくれている気持ちが伝わってくるからです。わたしもおばあちゃんのように、悪いことは悪いときちんと言え人になりたいと思っています。

おばあちゃんは、とてもおしゃれです。わたしのお父さんもおしゃれです。おかげで、わたしもおしゃれが大好きです。友達から、「夏香菜ちゃんの服、とてもかわいい。」

とほめられると、おばあちゃんにてよかつたと思います。

おばあちゃんは、料理が上手です。おばあちゃんの料理は何を食べてもおいしいです。わたしが、おばあちゃんに料理を教えるときは、料理教室に通っているような気持ちになります。おばあちゃんの説明は、分かりやすいし、おばあちゃん言う通りにしていると、魔法のようにおいしい料理が出来上がっていくからです。それに、おばあちゃんと料理をしていると楽しくて、おばあちゃんもわたしも笑顔になります。今まで作ったことがあるのは、たまごやきやカレーライスです。お兄ちゃんたちに、クレープやパンケーキを作ったこともあります。お兄ちゃんもおばあちゃんに

たのか、料理がとても上手です。とくにデザートが上手です。おばあちゃんのおかげでわたしの家族は、みんな料理を作ることが大好きです。

おばあちゃんは、わたしや弟の世話だけでなく、毎日仕事もしています。とくに給料日前は、いそがしそうです。おばあちゃんは、計算がとても得意です。わたしもおばあちゃんみたいに計算が早くできるようにがんばります。

おしゃれで、若々しい、元気なおばあちゃん。いつまでも、長生きして、わたしたちを見守っていてください。わたしもおばあちゃんに負けないうよう、やさしくてみんなを明るい気持ちにすることができるようになりたいです。



佳作

福浦白まんのおじいさんおばあさん

福浦小学校五年 猪野愛莉

私が住んでいる福浦には、いつも元気で、自ま
んでできるおじいさんおばあさんがたくさんいま
す。

まず、登下校のときに、見守り隊として、いつ
もいっしょに歩いてくださる吉田さん。雨の日も、
風の日も、どんな日でも、毎日わたしたちのため
に出てきてくださいます。それに、私が元気がな
いときは、「大丈夫？」と声をかけてくれるので、
ほっとするし、うれしい気持ちになります。吉田
さんのやさしい声や笑顔が大好きです。

次に、福浦小学校の畑の先生、谷口さん。畑に
ついてとてもくわしく、野菜の植え方や育て方に
ついていていねいに教えてくださいます。谷口さん
の指導のおかげで、いつもおいしい野菜やおいも
などを採って食べることができています。十二月
にはもちつき、二月にはひなあられ作りもいっ
しょにしてくれます。おいしく作るコツをたくさ

ん知っていて、とてもすごいです。

他にも、三ばそうや盆おどりを教えてくださっ
たり、もちつきを手伝ってくださったりする友ざ
わさん。登下校の見守りや、学校の授業での防災
散歩をいっしょにしてくださいるはま本さん。いつ
も校門の前に立って、わたしたちの様子を見守っ
てくださいる谷口さん。地域の見守りや、草かりを
してくださいる田原さん。公園の草かりやごみ拾い
をして、わたしたちが使う場所をきれいにしてく
ださいる中野さん。盆おどりの歌を歌ってください
たり、たまにドーナツを作って持ってきてくだ
さったりする若松さん。野菜やくだものを上手に
育て、わたしたちにも分けてくださる中平さん。
そして、福浦の区長さんで、わたしたちが住む場
所の点検をして、いけないところは直してくだ
さったり、いろいろな行事で中心となって働いて
くださったりする福田さん。学校の授業や行事に
もこころよく参加してくださいる。行事のあい
さつもとっても上手です。

まだまだ挙げれば切りがないくらい、自まんで
きるたくさんのおじいさんやおばあさんがおられ
る福浦地域。私は、いろいろな場面で、いろい
ろな方にお世話になっています。これからも、もっ

ともしっかりと地域のひととの交流を深めたいです。それ
に、まだ知らない人もいると思うので、地域での
行事などに積極的に参加して、仲良くなりたいた
い。そして、いつもたくさんお世話になってい
るみなさんへ、「いつもありがとうございます。」と
いう気持ちをわすれず、元気にあいさつをしたり、
学校行事や地域行事も一生けん命取り組んだりし
ていこうと思います。そうすると、きっと福浦が
もっと元気になって、おじいさんやおばあさん
たちも喜んでくれると思います。



絵画の審査を終えて

審査員一同

今年度は、郡内六校の小学校から、おじいちゃん、おばあちゃんとの温かな交流の様子を描いた作品が四十六点寄せられました。

家庭でのほほえましい一瞬や、畑や山、家族旅行などの屋外での瞬間を切り取った作品からは、明るい会話や楽しい雰囲気を感じる事ができました。また、仕事中の真剣な表情を描いた作品からは、おじいちゃん、おばあちゃんへの尊敬や感謝の念が伝わってきました。

特賞に輝いた河野聖さんの「たけのこをほったよ」は、たけのこ堀りで大きな収穫があったことへの喜びが伝わってくる作品です。大きなたけのこを手にとちらを向く、三人の表情が丁寧に描かれており、強く印象に残ります。

学校数、児童数の減少により、作品の数も決して多いとは言えませんが、今後もこの作品展が継続されることを願います。

作文審査を終えて

審査員一同

今年度は、郡内六校から十五点の作文応募がありました。その中から、十点の入賞作品を選出しました。どの作品も、おじいちゃんおばあちゃんへの尊敬や感謝の思いが書かれていました。

特賞に輝いた大野仁睦さんの作品では、自在園のおじいちゃんおばあちゃんの生活やそこで働く方々の様子を分かりやすく表現していました。作文を書くことを通して自分の思いや考えを広げ、お年寄りへの理解を深めることができていました。

審査をしていて、おじいちゃんおばあちゃんがいることがありがたく、誇らしく思う子どもたちの気持ちが伝わってきました。様々な交流を通して、憧れや感謝の気持ちを抱いたり、いつまでも一緒に生きたいと願ったりという温かい思いを感じました。

今後も、伝統あるこの作品展を通して、子どもたちの心が育っていくことを願っています。

ご協力のお礼

冬のひだまりがことのほか暖かく感じる今日頃です。第四十八回地域交流文化祭、こども作品展の開催に当たりましては、郡内小学校児童の皆さんより絵画、作文合わせて六十一点のご応募いただき誠にありがとうございました。

今年度は六年ぶりに自在園にて表彰式並びに入選作品の発表会を開催致します。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と、心より感謝申し上げます。愛南町教育委員会をはじめ、小学校の先生方、特に作品審査をお願いいたしました小中学校の諸先生には、格別のご協力をいただき心からお礼申し上げます。表彰式並びに発表会の様子につきましては、愛媛CATV愛南局のご協力をいただき、ケーブルテレビでの放送も予定しております。

自在園一〇名の入居者の皆様も、この作品展を毎年心待ちにされております。それぞれの作品には、高齢者に対するやさしい思いやりが生きてきと表現されているものばかりで心うたれ、更に生きる喜びを強くされたと思います。

これからも職員一同力を合わせ、地域の皆様に親しまれ、愛される施設づくりに努力致す所存でございますので、変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和七年十一月二十三日発行

愛媛県南宇和郡愛南町満倉二三〇一番地一

社会福祉法人御荘福祉施設協会

特別養護老人ホーム

ユニット型特別養護老人ホーム

自在園

自在園

機関誌「自在」編集部

